

秋田湾沿岸の風力発電事業者公募への挑戦のご報告

株式会社 風の王国

(文責) 代表取締役 山本久博

<ご報告>

日頃の皆様のご支援に心から感謝を申し上げます。

先般より申し込んでおりました秋田湾岸の県有地における風力発電事業者の公募に、私どもの「風の王国・あきた」計画は残念ながら不採択となりました事を報告いたします。

私たちは秋田県の限りある貴重な風資源を子供達の未来の為に活かす事を目指し、世界で最も美しい「風車のある風景」を創り出す事をテーマに取り組みました。実現に向けては県内6グループ10社の皆様の賛同を受けて、まさにオール秋田の態勢で臨みました。

しかし我々よりも更に優秀な計画があった事は秋田県の将来に向けては喜ばしい事ですし、我々は最大限の準備を重ねて充分納得する計画を提案した上での結果ですので悔いはありません。

今は採択された事業が成功して世界から秋田が高く評価されるように温かく見守りたいと思います。

まずは私たちに応援して下さいました皆様に心からお礼を申し上げます。

今後は「風の王国・洋上計画」の実現に向けて活動を進めて参ります。

「風の王国・あきた」の計画概要の主要な部分を公開し「風の王国」の活動理念が途絶える事のないようにいたしますのでご参照下さい。

.....
(以下は採択されなかった事業計画の概要です)

<風の王国・あきた>計画

概 要 :

はじめに「**私たちは世界に誇れる景色を県民の力で創ろうと考えています**」
申込者の法人「株式会社 風の王国」は再生可能エネルギー事業に県内事業者が参画する事を推進する為に、2012年1月に秋田市に設立されました。製造業や建設業などの組織の中心メンバーの方々が発起人として参画しています。
今回の秋田湾沿岸の風力発電計画に関しては2011年にNEDOの補助金を頂戴して実現可能性調査(フィージビリティ・スタディ)が終了しています。

この調査で事業性が確認された事から、実現に向けてこれまでに設立した特別目的会社(SPC)は以下の通りです。

SPC「風の王国・男鹿」(風力 4 基 7480kW アセス終了間近で社長は男鹿市の菅原廣悦氏)

SPC「風の王国・潟上」(メガソーラー2MW すでに完成、社長は潟上市の菅原孝次郎氏)

今後も地域に根ざした発電事業会社を設立し、地域のエネルギー資源を地域の未来の為に活かすべく活動する方針です。(風の王国の理念・三原則を参照)

この度の公募に参加するにあたり、採択された後には県内の多くの志ある方達が一丸となって取り組むSPC「風の王国・あきた」を設立する予定です。

今回の計画の先行事例としてスタートしている「風の王国・男鹿」をモデル事業として、約5倍規模のSPCを設立する事は現実的な計画と考えられます。

地域の人達がみんなで手を組んで大きな事業に取り組む事は秋田県民の事業意識を変え、大きな自信が生まれる事を確信します。

周辺環境や景観への配慮：

- ◇ 考え方の中心軸は「世界に誇れる景色を県民の力で創ろう」そして「秋田県の代表的な景色を20年間お借りする意識で取り組む」と考えている事です。
- ◇ 子供達が自慢できる景色を目指し、県民の大切な風資源を地域の将来に活かします。
- ◇ 今、豊かな自然と美しい夕陽は秋田の自慢の景色です。しかしそこに美しい風車が並ぶ姿も、秋田が誇れる景色になると信じます。ただしそれには全体計画をランドデザインの意識に則って纏める必要があります。
- ◇ 周辺の居住地からの離隔距離を十分に確保します。(FS調査で確認済み)
- ◇ FS調査では野鳥の会等からのアドバイスで、渡り鳥の為に「鳥の道」を確保する等の配慮を加える事が大切である事が分かっています。
- ◇ FS調査の一環として、2010年12月に「日本野鳥の会秋田県支部」、大潟村自然保護協会、更には秋田県自然保護協会の方々に山本が直接面会し、野鳥等に対する配慮に関してのアドバイスを貰っています。
- ◇ この度も秋田大学の名誉教授にアドバイスを頂きました。(1月21日)
- ◇ 本計画は世界が注目する秋田モデルの実現を目指します。

保安林に対する配慮：

217 年前(1797 年)に佐竹藩の栗田定之丞が植栽を開始した砂防林の事は広く知られていますが、ワラの束・グミ・松・・・と三段階に長い年月をかけてようやく根付かせたと言われる砂防林が、これまでの長い間この地域の町や田畑を守って来た事を忘れてはならないと考えています。本申し込みを行なう山本自身が土崎港に生まれ育った経緯から、この松林が地域の人達にとって貴重な存在である事は誰よりも理解しています。またこの地域では唯一の海水浴場が出戸浜海岸だった事も含め、大切に考えている夕陽の綺麗な海岸線です。

勿論、砂防林や保安林の機能を守る事を大前提としての取り組みですが、この自慢の景色に美しい風車が立ち並ぶ姿が加わる事は、決して醜悪なものではなくむしろ世界に誇れる美しい風車のある景色を提案出来ると考えます。その実現の為にも単なる発電事業ではなく保安林も含む秋田の景色を創る意識で取り組む事が、本計画の主軸にある事を提案します。

従って風車の配置は秋田の景色を 20 年間お借りするに値するような美しい配置である事。勿論渡り鳥等への配慮(鳥の道など)を加えたレイアウトである事、当然の事ですが工事に必要な木の伐採は最少限に留める事、更には運営管理用の取り付け道路等も保安林の機能に影響を与えないようにしながら、市民が楽しめるようなアスリート向けのコース設定なども考えたいと思います。

周辺地域に対する貢献：

- ◇ 「風の王国・あきた」では地域の人達から信頼されているグループの人達が手を組む事を目指します。(先行している SPC 男鹿と SPC 潟上の社長は前述の菅原廣悦氏と菅原孝次郎氏でこれは成功実績と考えられます)
- ◇ 事業の生み出す利益を地域に分配する為の出資システムなどは、地元金融機関に最大限の協力を仰ぎます。(秋田銀行・北都銀行・秋田信金ほか)
- ◇ 機種選定に向けてはメーカー側の秋田県への産業振興に最大限の協力を要請し、雇用の創設を目指します。(工場や関連施設の県内誘致など)
- ◇ 昨年 2013 年 3/4 と 6/7 に、ドイツのトップブランド風車メーカーのアジア地区代表者が来県し、需要が見込めれば秋田県へのアジア地区を代表する風車工場の進出計画がある事を伝えられました。大規模計画を活かして風力発電産業の振興を目指し、雇用を創設する「風の王国構想」の目標が実現しようとしています。

- ◇ メンテナンスにも地元への委託を求めています。(能代市では実現中)
- ◇ 地元の住民が無料で利用可能な EV の充電ステーションの設置を検討中。
- ◇ 管理道路をランニングロード・サイクリングロードとして活用し、人々が集うエリアを作ります。(道の駅との併設で設備の利用価値が高まります)
- ◇ 観光客が必ず立ち寄る撮影ポイントを整備し、観光資源としても大いに活用します。
- ◇ 世界中に秋田をアピールします。

県全体に対する貢献：

- ◇ 風車メーカーなどには工場やメンテナンス基地の誘致を求めています。
- ◇ メンテナンスを地元の企業にも委託してもらいます。
- ◇ 地元の教育機関で関連の研究者育成やメンテナンス従事者の育成などにメーカーなどからの協力を求めています。
- ◇ 国際的な交流の場、たとえば国際フォーラムの開催などに積極的に協力します。
- ◇ 県内で開催されるエネルギーイベントなどへの積極的な参加を目指します。
- ◇ 建設工事などは最大限を地元の企業に委託します。
- ◇ メーカーの国際的な情報発信力を活用して秋田県の情報の世界に発信します。

その他：

- ◇ 「世界に誇る風車のある風景」の実現を追求します。
秋田湾の景色を世界に誇れるグランドデザインとして提案します。ポスターやテレビ CM に秋田湾の景色が登場する日が来る事を信じて取り組みます。
- ◇ 本計画に参加のメンバーは以下の通りです。
(中略)
- ◇ 本計画は 2008 年に発足した「風の王国構想」のイメージ事業として 2012 年 2 月の国会予算委員会の中でも紹介された、いわば秋田の再生可能エネルギーの顔とも言える事業です。
- ◇ 2009 年と 2012 年に「環太平洋自然エネルギー国際フォーラム」も開催されました。

- ◇ NEDO の 100%補助事業となった実現可能性調査(FS 調査)の対象事業として既に報告書の概要が公開されています(2011年3月8日・震災の3日前に報告書が完成)(資料参照)
- ◇ アメリカエネルギー省(DOE)の前日本代表だったロナルド・チェリー氏から、この計画は「パッケージディール」というアメリカではとても高い評価を得る「ビジネスモデル」だと励ましてもらった事を紹介させていただきます。(2009年米国大使館にて)
- ◇ 既に事業がスタートしている「風の王国・男鹿」では、4基の風車の建設の準備が進行中で、県有地をお借りする今回の事業の原型になります。このSPCが更に5倍纏まる事は事業性を高める為には有利になるとともに、地域主体の新しいやり方の提案でもあります。
- ◇ 「風の王国」の三原則に則り、地域の人達が主体になり、優良な大手企業や組織の力を借りながら秋田県の産業振興に寄与する事が目的です。
- ◇ 誰かの為の事業ではなく、地域の皆が関わり、応援出来る事業にする事が最優先です。 以上



株式会社 風の王国 代表取締役山本久博

WWF ジャパン(世界自然保護基金)セミナーの講演・動画でも紹介されています。

<http://www.wwf.or.jp/activities/2014/02/1185010.html>